

## 訪問をして

今月も6カ所の医療機関を訪問させて頂きました。お忙しい診療の合間をぬって、貴重なご意見をたくさん伺うことができました。当院で現在取り組んでいる紹介窓口の一本化に関しましては、様々な先生方から支持の声を頂きました。ただし緊急の対応が必要な場合は、これまでどおり救急外来や、各科の医師あてにお電話を直接頂くほうがスムーズであると思います。また、「顔の見える連携」の障害のひとつとして病院側の医師がローテートですぐに代わってしまうという点も多くの先生方からご指摘頂きます。病院としては、医師が入れ替わっても先生方との良好な連携ができ、患者様が安心して医療を受けられるシステムと意識作りが必要であると考えております。



腫瘍内科 尾崎 由紀範

## TOPICS

**家族ケア勉強会** 【元気が出る!!カンファレンスの持ち方】  
 日時: 9月25日(日) 10:00 ~ 16:30  
 場所: 亀田総合病院K棟13階ホライゾンホール  
 講師: 家族ケア研究所 所長 渡辺 裕子先生  
 費用: 14,000円  
 詳細は同封資料をご確認下さい。

**腫瘍内科講演会** 婦人科がんの化学療法について  
 日時: 9月26日(月) 19:00 ~ 20:30  
 場所: 亀田総合病院K棟13階ホライゾンホール  
 講師: 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 外来医長 勝俣 範之先生  
 参加ご希望の方は、がん拠点病院推進センターまでご連絡下さい。

## がん地域連携室スタッフよりご挨拶



クリニック看護室 主任 高島 和恵

こんにちは。4月からがん地域連携室会議に参加させて頂いております。クリニック外来NSの高島です。ひとりの患者さまを通して、開業医の先生方と当院の医師で情報のやり取りをし、その患者さまには、安心して受診していただけるよう私達はPSRの協力の下、外来を担当しております。「顔の見える関係」の大切さをこの会から学びました。病院訪問等で出た課題を一つずつ取り組んでいきたいと思っております。これからも宜しくお願いします。

## がん連携パスだよりによせて



中原病院 副院長 関口 千春先生

中原病院・副院長の関口と申します。当院は、介護療養型のベッドを主体とし、少ないながら一般病棟もありますが、ほとんどは高齢の透析を必要とする腎不全患者で占められています。また、訪問医療はそれに対応することができるだけの医師数を確保できていないことなどから、実施できない状況です。このような事情から、これまで残念ながら当院ではこの連携パスによりがん患者さんを受け入れた実績がなく、その経験談をお話することができません。そこでここでは自己紹介をすることにしました。小生はここ中原病院に来て4年となりますが、医学部卒業後は腎臓内科に籍を置き、腎疾患患者を中心に一般内科の修練を受けた後に、学位取得いたしました。その後、通常の医師とは全く違った分野ですが、学生時代から興味があった航空宇宙医学の分野に進みました。自衛隊パイロットの健康管理と航空医学研究に始まり、元・宇宙開発事業団(NASDA)、現在は宇宙航空研究開発機構(JAXA)には1985年から20年近く在籍、宇宙飛行士の健康管理と宇宙飛行による身体への影響の研究を行ってまいりました。NASDA在籍中には、日本で最初に宇宙飛行士となった毛利・向井・土井宇宙飛行士の選抜から始まり、現在宇宙ステーションに滞在している古川飛行士に至る8人の宇宙飛行士の日常と宇宙飛行中の健康管理の責任者としての役割を担ってまいりました。ご存じの方もいると思いますが、現在、地球上空400kmには、国際宇宙ステーションが飛行しており、これはNASA、ロシア、ヨーロッパ、カナダ、日本の5機関による国際プロジェクトです。ここには常時5人の各国の宇宙飛行士が滞在し、宇宙環境を利用した研究、観察などを行っています。各機関からの医師は、24時間体制で宇宙飛行士の健康をサポートしていますが、このプロジェクトがスタートする前の段階から小生が関わり、各機関からの医師が会合を重ね、如何に効率的でしかも安全に宇宙飛行士の健康管理を実施できるかと検討を重ねて、現在に至っています。言語も、文化習慣も違う医師は、最初、お互いの意見がかみ合わず、なかなか合意に至らず大変苦労しましたが、何度も会合を重ねていくうちにお互いが理解できるようになり、信頼関係が築かれ、徐々に事がスムーズにいくようになりました。これはまさに国際協力による連携と理解のたまものであり、今でも国際プロジェクトの一翼を担ったのだと自負しております。58歳で定年となり、その後からはもともと経験のあった透析医療を中心に再び臨床医学の現場に戻り、現在に至っていますが、この国際プロジェクトでの調整と連携の経験は、この地域のがん連携に何らかの形で役立てられるものと思っており、微力ながら協力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

## 循環器内科の病診連携

循環器内科 部長 松村 昭彦

生活習慣の変化、また高齢化に伴い心臓疾患の罹患率は増加しています。その中でも心筋梗塞の増加は著しく当院でも年間100名以上の患者さまが入院されています。心筋梗塞の治療は主に急性期治療と慢性期治療に分けられます。急性期治療は緊急の冠動脈形成術、血栓溶解療法から合併症の予防、さらには心臓リハビリが該当します。また慢性期治療とは危険因子の管理といった再発予防が中心になり、外来では血圧、脂質、糖尿病、さらには禁煙を含めた日常生活の管理を行うこととなります。千葉県は県の事業として平成20年からがん、脳梗塞、糖尿病、心筋梗塞に対して県全体で使用可能な千葉県共用地域連携パスを作成し、運用を開始してきました。この心筋梗塞パスとは、私ども亀田総合病院のように急性期治療を行った地域の中核病院が患者さまの通院しやすいかかりつけ医の先生方と一緒に治療していくシステムです。かかりつけ医の先生方は中核病院からの情報を元に患者さまの管理を行い、中核病院は定期的に患者さまを診察して専門的な検査を行います。患者さまは特に異常がない限り、中核病院までわざわざ出向いて診察を受ける必要がありません。千葉県、および医師会ではこのパスを使用することで心臓専門ではない先生方にも心筋梗塞患者さまの指導をしていただこうと考えております。しかしながらパスはあくまで地域連携のひとつのツールであり究極の目標は以前このパスだよりで安房医師会長の宮川先生がご指摘されていたように「顔の見える医療」です。亀田総合病院循環器内科では地域の先生方との交流を図るためニュースレター「コア」を発行し、現在私どもがどのような診療を行っているのか紹介しております。また一部の地域の先生方とは循環器内科の連携室とのやり取りのみで冠動脈CTの予約ができるように運用をしております。今後心筋梗塞パスなどを通して先生方と真の連携、「お互いがわかりあえる医療連携」ができるようにしたいと思っております。

## 2011年8月3日 第2回がん診療連携パス交流会開催



昨年に引き続き、8月3日(水)に「第2回がん診療連携パス交流会」を開催いたしました。近隣医療機関15施設から24名、亀田総合病院内から96名、計120名の方にご出席いただきました。多くの方は診察終了後に会場までお運びいただき、大変感謝しております。また、様々な職種の方にお越しいただき、所属・職種を超えての交流ができたことをうれしく思っております。

本年は函館で実際に地域連携パスを実践しておられる社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院(地域がん拠点病院)・社会福祉法人守一會北美原クリニック(地域医療機関)より講師の先生をお招きしました。両施設は昨年、地域連携室メンバーが地域連携について学ぶ為訪問させていただいた際、とてもスムーズに連携が取れていると実感いたしました。ぜひこの地域の皆様にも貴重なお話をお聞きいただきたく、お招きいたしました。北美原クリニック理事長 岡田晋吾先生には開業医の立場から、また函館五稜郭病院企画部センター長船山俊介先生には拠点病院内での取組みをご教授いただきました。説明会後の懇親会は、昨年同様立食形式で料理を召し上がっていただきました。皆様には気軽に周りの方々との交流を図っていただくことができたと、場の雰囲気より感じております。懇親会の中では、今後連携の為のツールとして検討しているfacebookについてご紹介しました。

今後も定期的に交流会を開催し、皆様との交流を図りたいと考えておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

亀田総合病院がん拠点病院推進センター  
 発行責任者: 亀田 信介  
 編集責任者: 唐織 房子  
 TEL: 04-7099-1230(内線7155)